

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居判定の中で地域性を点数化している為。地元の人が入居が有利である。地域で暮らしているという安心感を持ってもらうよう地元のボランティアの受け入れ、外出の支援を図っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの際に理念を言うようにしている。WCの中にも視点として紙に書いて貼り、意識するようになっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の目に付く所に掲示をしたり、推進会議・家族会の時にお話ししている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事やボランティアの来所時はお知らせし、参加して下さるよう声を掛けさせて頂いている。野菜を持って来て下さったり、お茶を飲みに来る方も出来た。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・育成会行事の参加、保育園との交流等ご案内を頂いたものに関しては出かけている。・地域のゴミ0運動、せぎ掃除等への参加を入居者と一緒に行っている。・ゴミ当番、公民館の掃除も今年度より行う予定である。	○ 散歩の時等、公園や道路のゴミ拾いをする。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>入居申し込みの方に対しては体験的な利用をしてもらっている。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>新人スタッフに関しては、しっかりと意義を伝え理解を促す。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>12月の会議の時は、家族会の奉仕作業の日と重ねて、家族代表の方だけでなく他の家族の方にも推進会議のメンバーの人と交流を持ってもらい、大勢の方に支えられていることを実感してもらえよう計画している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>勉強会を予定しています。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>スピーチロックに対する取り組み・介護職員のストレスの軽減を図る。</p>

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にきちんと説明を行っている。退居の際は、事前に話し合いを設け不安の軽減を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員2名の訪問が月1回ある。相談員さんからの意見をお聞きし改善点は極力改善している。	○ ご家族へ相談員さんの訪問日をお知らせし、ご家族からのご意見も相談員さんに反映できるようにする予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康面に関しては、個別にその都度連絡している。金銭管理については、面会時定期的に確認印を頂いている。職員の移動は新聞に載せたり、家族会の時に報告している。個別に近況報告を職員からの手紙で送っている。	○ 定期的に担当スタッフからの手紙を出す。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けの窓口職員は、文書にて明確になっている。重要事項説明書に添って説明している。又、常にご意見を聞く姿勢をとっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で場を設けたり、日々の仕事の中で管理者は職員の意見を聞くように努めている。	○ 運営者に意見をつなげる場所を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じて対応できるような体制をとっている。ユニット同士の協力で、業務の合理化をはかっている。	

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は本人の希望による場合のみである。離職による補充は可能な限り地元の方を採用している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加を推進している。管理者及びリーダー・研修経験者によるOJTの実施。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回の施設部会、善光寺平グループネットに管理者が参加し、同業者との状況交換を図っている。市内3箇所のグループホームと地域密着特定施設と定期的に交流を図っている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理部を通し、職員との面談の機会を設けている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給・賞与など条件面については能力、姿勢（仕事への取り組み）などを考慮している。出来るだけ意向に沿うよう努力している。</p>		

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みの時点で、利用者に来所していただき、2～3時間の体験をしていただく。本人の話は傾聴するよう努めている。	○	家庭訪問をし、その人がどんなところでどんな暮らし方をしてきたかを含め、普段の暮らしの中から情報を得ていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をゆっくり設け、しっかり向き合って話を聞いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来る相談を中心にいつでも受け入れの出来ることをお伝えし、居宅のケアマネさんへ情報提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの時点で何時間か過ごす体験をして頂いている。家族と一緒に泊まってもらう。家へ帰る時間を設ける等、少しずつサービスに慣れるような支援をしている。	○	入居前に泊まり体験をして頂く予定。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や畑仕事等日常生活の中で支えあうスタイルはできつつある。センター方式の5つの視点を常に念頭に置き、「その人にとっての」を大切に、共に喜び、悲しめる関係を大事にしている。	○	ひとり一人の喜怒哀楽にしっかり向き合えるゆとりを持てるようにしたい。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の時にお話ししている。面会の際には個々へもお話をしている。家族会による奉仕活動も予定している。	○	家族の役割がケアプランの中に入っている方もいるが、入っていない方についてもプランの見直しの際にしっかり役割を持ってもらうようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一緒に食事をしたり、散歩をしたりと自由に過ごして頂いている。家族と一緒に過ごす時間を行事として年3回設けている。ご家族には、家族ごと事情が違うが、型は違っても一緒に支え合っている関係を切らないような支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方に関しては、訪問してくれる人も顔なじみ、又買い物、散歩等でも声を掛けて頂き、関係が続いている。千曲市以外の方にも家族にご協力をお願いしている。	○	家へ何時間かでも外出できるよう支援したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然に協力し合えるような場面を設定している。又、自発的に無理な方にも、皆と集える場所へご案内している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでもご連絡していただけるような関係作りに努めている。		

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望にそえるように、外出や買い物等努力している。生活歴の中からスタッフ間で話し合い、○○ではないだろうかと推測するようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネからの情報を頂いたり、ご本人からも聞ける所は聞いている。ご家族からの情報を元にその人らしさを支えられるよう努力している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	残存機能を引き出せるよう、又、1日の中で自己決定ができる場面を作れるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を家族を含めて行っている。又、ご家族の面会時等、意向を伺っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日程を決め3ヶ月ごとに行っている。心身の変化に応じ、見直しを行っている。その場合、医師等の意見もお聞きし、プランに反映している。	

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの評価を中心に日々の記録をしている。その人らしさ、時にできたことやわかることの発見や様子をその他として記入するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助や理髪への付き添いを行っている。又、医療と連携し、ケースによるがホームでの終末期ケアも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、消防の方には推進会議のメンバーになって頂いている。ボランティアもほぼ地元の方が中心に定期的な訪問があり、小学生との交流会も行っている。地域の踊りの発表会にも招待頂いている。	○	地区の文化芸能祭に参加してみたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向や必要性が生じたときには、いつでも他のサービスを利用できるような体制をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	直接的な関わりはもっていないが、介護予防教室の講演を聞きに行ったり、ランチとなっている老健から情報を頂いている。	○	地域包括支援センターに新聞を配ったりする等して関わりを持つようにしたい。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先の施設等への情報提供は行っている。特に生活習慣が継続できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務があることを日頃から意識し、個人情報の取り扱いについては玄関へも掲示してある。職員の言葉遣いや態度に関しても尊厳が守られているか等、日々の振り返りを心掛けている。	○	スピーチロックに関して、言葉遣いを見直している。毎月『「○○」という言葉遣いはやめよう』という目標を立て、申し送り時に意識付けをしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できる場面を設ける努力をしている。おやつ等2種類以上用意し選んで頂いたり、洋服を自分で決めてもらったり、何が食べたいか伺ったり等している。	○	介護者サイドに合わせていただけてしまうときは「申し訳ありません。こちらに合わせてもらって」という気持ちを言葉に出すようにする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間も皆さん違います。食事の時間もその人に合わせ提供できるようにしている。	○	「その日その日をどのように過ごしたいか」利用者がどんなことを思っているかを考えたり、思いを寄せられるよう言葉に出して利用者に聞くことをしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外の理容院へお連れしている。化粧水をつけたり、髪をとかしたり等、日常的に声掛けでできる方にはして頂いて、自力で無理な方にはこちらで介助しています。	○	誕生会や外出時など特別な時は着飾ったり、お化粧品やマニキュアをつけたり等する。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	最近、外食が少ない為、外食の支援をボランティアさんの力やご家族にも協力して頂きながらやっていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	夜間入浴をできる日を設けたい。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	楽しみごとについてもプランの中に位置づけていきたい。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布を持っている方もおり、買い物のさいに自ら精算していただくこともある。個人の買い物については出来るだけご本人をお連れし、選んでいただいたり、お金を払っていただくことを支援している。	○	業者に入ってもらって、菓子の販売をしてもらっている。定期的に売店のようなものやっていたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩は日課になっている。また、買い物や地域の行事などへも参加している。	○	散歩も集団で行く事が多いが、一人一人の歩行能力や、行きたい場所へなど出かけられるようにした。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外食や、温泉など出かける方もいる。外食、お花見などの外出の支援はしている。	○	ご家族、ボランティアの方のお力をお借りし、外出の機会を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけることの支援はしている。かかってきた電話にはいつでも本人が出られるよう支援している。	○	本人の書いた文字や、絵などもホームからの手紙に同封したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来て頂ける様面会場所の配慮をしている。また、お帰りの際はまた来て頂ける様、ご本人や他の利用者と一緒に見送りをするようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしない」ことを職員はしっかり理解し取り組んでいる。	○	研修へ参加し、「人権を守ること」を徹底していきたい。

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	はさみに関しては、夜間はデスクに戻せるようにしたい。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	防災に関しては、地震などの災害を想定した訓練も実施していきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	全ての職員が具体的に処置などできるようしていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

グループホームまゆ更科・あんずユニット


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの中に盛り込み、同意を頂いている。また、施設の取り組みなど、家族会でもお話をさせていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りを徹底することで、情報を共有している。異常の発見のさいは、自己判断せず看護師の指示を仰ぐシステムになっている。また、かかりつけ医にも適宜連絡をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書をファイリングしたり、与薬字はサインをするシステムになっている。補充時にもダブルチェックをし、間違いのないよう注意している。また、臨時薬については、申し送りで徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活用している。水分摂取や繊維質の多い食品の提供、また、腹部マッサージや散歩など、自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の方でも舌や歯茎を刺激するよう、ブラッシングを行っている。個別に仕上げ磨きをしたり、清拭をし、清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後とチェック表に記入している。水分に関しては、10時15時のお茶以外にも温度や湿度など、環境に応じ、敵に補給するよう努めている。また、本人の好みのものなど、できるだけ摂取量が落ちないように工夫をしている。		

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成している。また、保健所や、他事行書間の連絡も密に行っている。	○	実際の対応が出来るよう学習会を行ってきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やキッチン周りの消毒は仕様の度に行い、衛生管理に努めている。買い置きはせず、毎日食材の買出しに行っている。また、旬の物を入れるよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感の無いよう、草花を植えたり、表札をかけたりにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や切花を飾ったり、たたみコーナーにはコタツを置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアにソファや椅子を置いたり、たたみコーナーにコタツを置き、気の合う仲間同士自由に寛げるようにしている。		

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品、装飾品をお持ち頂 き、一人一人の居室の雰囲気が出ている。また、 アルバムや、家族との写真の掲示もあり、自身 の部屋としての安心感もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝必ず窓を開け、換気している。汚物に関し ては、適宜外へ出している。冷暖房も外気温との差 が無いよう小まめに天窓の開閉などで対応し ている。また、居室に関しては、適宜エアコンを使用 している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	浴室・トイレ・フローに手すりの設置がしてあ り、身体機能低下に伴う配慮をしている。しか し、車椅子がトイレに入らない、またいで入る浴 槽だったり問題もあるが、福祉用具の活用でカ バーしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	認知症による誤認や錯覚を起こさないよう、環境 の整備に留意している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑や花壇があり、園芸や収穫を楽しんでいる。物 干しは、毎日の洗濯に活用している。また、中庭 を見ながらの日向ぼっこもしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームまゆ更科・あんずユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の散歩をプランに位置づけている。

季節ごとのイベント（お花見・花火大会・敬老会・もちつき・新年会）地域、ご家族と協力しながらやっている。

地域行事への参加（舞踊、マンドリンなどの発表会・保育園の運動会・育成会相撲大会・どんしゃん祭り・障害者施設でのイベント・ふれあいサロン・芸能祭など）